

## 6・遠野市立博物館・遠野文化研究センターの文化財レスキュー

前川 さおり 遠野市立博物館博物館係長 兼 学芸員

## 1. 参加の体制

## 1-1 遠野市立博物館

3月11日から4月17日まで、遠野市立博物館職員はすべて市内施設に分散配置され、市内の避難所対応、炊き出し、災害ボランティア受け入れ業務などにあたった。

3月28日に博物館職員（小職）が休暇で訪れた陸前高田市立博物館・同図書館・海と貝のミュージアムの被害状況を確認する。4月6日に陸前高田市海と貝のミュージアム兼陸前高田市立博物館主任学芸員と連絡が取れる。4月12日に海と貝のミュージアムと陸前高田市立博物館の資料レスキューを行うとのことであった。その時点で、博物館職員は災害対応業務に従事していたため、小職のみ参加。当館は民俗専門博物館であり、陸前高田市立博物館には、国指定重要有形民俗文化財の漁撈用具など民俗文化財が残存している可能性があると考えたためである。4月21日の県教育委員会の呼びかけによる陸前高田市埋蔵文化財収蔵庫のレスキューに博物館職員1名、遠野文化研究センター2名参加。以後、22日～5月12日まで9回の陸前高田市立博物館作業は1名参加。5月以後は遠野文化研究センター職員との合同レスキューとなる。

## 1-2 遠野文化研究センター

4月1日に設立された遠野市立遠野文化研究センターは、5月に被災地に本を送る「献本プロジェクト」と「文化財レスキュー」を柱とする「三陸文化復興プロジェクト」を事業として立ち上げる。文化財レスキュー担当専任職員を2人配置する。博物館職員との合同体制になる。大槌町立図書館資料の洗浄・修復は、専任職員、緊急雇用の臨時職員2名、ボランティアのべ760名（平成24年3月17日現在）の協力を得て進められている。

## 2. 経費調達

必要な消耗品は、遠野市予算もしくは被災等救援委員会、盛岡大学、東京文書救援隊から送られた物資で対応した。また車両については遠野市公用車を使用した。

## 3. 具体的な作業内容

## 3-1 現地での資料探索、移送、安定化処理作業

- ・4月12日  
陸前高田市海と貝のミュージアムの貝類標本の搬出作業の手伝い
- ・4月21日  
陸前高田市立博物館・埋蔵文化財収蔵庫の瓦礫撤去資料探索
- ・4月22日、23日、27日、28日、30日  
陸前高田市立博物館の瓦礫撤去、資料探索
- ・5月1日  
鳥羽源蔵の生家・蔵からの資料運搬手伝い
- ・5月7日、12日  
陸前高田市立博物館から旧生出小学校への資料運搬
- ・5月13日  
大槌町立図書館視察と陸前高田市埋蔵文化財収蔵庫の資料探索
- ・5月17日～19日  
大槌町立図書館閉架書庫から郷土資料を遠野に搬出
- ・5月23日～27日  
陸前高田市旧生出小学校で資料のドライクリーニング作業
- ・5月28日～29日、6月29日  
海と貝のミュージアムのタッチング剥製標本「つつちい」のレスキュー。国立科学博物館、岩手県立博物館、陸前高田市、地元教諭、自衛隊との合同作業で、ガレキの撤去後に標本を天井からはずし、仮架台に吊り直して外に搬出、トラックに積み込み、科博のつくば収蔵施設に移送
- ・6月8日～10日  
旧釜石第一中学校で海水損した釜石市役所行政文書の乾燥作業を国文学研究資料館の呼びかけにより行う。スクウェルチ・パッキング法による作業
- ・6月15日、22日、7月8日、19日、29日、9月15日  
旧生出小学校での洗浄作業
- ・7月2日  
旧釜石第一中学校内にある郷土資料館収蔵庫での洗浄作業

## 3-2 大槌町立図書館資料の洗浄と修復

大槌町立図書館は、津波により蔵書5万3000冊のほとんど



大槌町立図書館



スクウェルチ・パッキング法による乾燥作業

どが流され壊滅的な被害を受けた。閉架書庫に保管していた明治時代の町議会資料や郷土資料が海水損していたが、遠野市立博物館旧農協新町収蔵庫前室に町議会資料 160 冊、新聞スクラップ 230 冊のほか郷土資料を移送し、当初は風乾を行い、6月10日以後はスクウェルチ・パッキング法による乾燥方法を行う。8月2日以後は東京文書救援隊の資材と技術提供を受けてフローティング・ボード法及びエア・ストリーム法による洗浄と乾燥を行っている。平成24年3月現在、作業進捗率は50%で、今後1年以内に完了する見込みである。



浮き板を利用した紙の水洗作業

### 3-3 情報発信活動

#### ① シンポジウムの開催

- ・文化による復興支援シンポジウム  
6月12日 遠野・あえりあ交流ホール
- ・文化による復興支援シンポジウム  
9月24日 東京・国立劇場小劇場
- ・遠野文化フォーラム  
11月3日 遠野・市民センター大ホール
- ・対談「東日本大震災と文化復興」  
平成24年3月4日 東京・都立中央図書館
- ・文化財レスキューフォーラム  
平成24年3月22日 遠野・市立図書館ホール
- ・三陸沿岸現地視察  
平成24年3月23日 山田町～陸前高田市

#### ② 文化財レスキュー展の開催

- ・文化財を救え！～東日本大震災と文化財レスキュー展  
7月22日～9月29日 遠野市立博物館
- ・文化財を救おう！～東日本大震災と文化財レスキュー展  
10月1日～10月10日 東京・代官山ヒルサイドフォーラム



震災からよみがえった東北の文化財展

- ・震災からよみがえった東北の文化財展  
平成24年2月26日～3月11日 東京・都立中央図書館  
平成24年3月16日～3月28日 遠野市立博物館

---

## 4. 救援活動参加の成果と課題

- ・活動に参加した職員は、資料洗浄と修復の基礎的な知識と技術が身についた。しかし今回の大規模災害のように交通・通信が遮断された場合を考え、資材が不足する中で本格的な安定化処理が始まるまでの時間をかせぐ知識と技術を誰でもが普段から習得しておくことが必要であったと思われる。
- ・人的被害が大きく、人命救助優先という状況のなかで、被災地に対する「遠慮」という内的な要因もあり、また文化財レスキューそのものが認知されてこなかったため、公務として行うまでに時間がかかった。しかし自衛隊によって瓦礫がすべて撤去されてからでは、資料発見は実際もっと困難なものになったのではないかとと思われる。

## 5. 委員会のあり方についての評価と指摘すべき問題点

- ・物資が不足している時期に、洗浄作業などに必要な資材の提供があり難かった。面倒な手続きがあまりなく、すぐに手配・配送していただいたことに驚いた。
- ・自治体の行政機能が災害により著しく損なわれている場合に、国の文化財レスキュー事業があることをどのように知らせるのか、その自治体内に国に救援依頼が出せるほど文化財に対する理解がある人材がどれくらいいるのかなど初動の問題もある。
- ・文化庁の示したスキームのレスキューがどの程度行われるのかどうか、周辺市町村にはあまり情報が下りてこなかった。

## 6. 震災時文化財レスキュー活動のあるべき形態（提言）

道路が寸断、通信も遮断し、担当職員の行方が不明で、その施設自身が被害報告できない状況にある場合に、代わりに被害や救援依頼の意志を確認し、報告するような緊急初動体制の構築が必要ではないか。

## 7. その他

災害時に救出すべき対象の一つに文化財があることを一般に広く知ってもらう必要があった。震災発生当時に岩手県には資料救済ネットワークがなく、このような救出活動があることが一般に知られていなかった。

遠野市は災害後方支援の一大拠点となっており、毎日多くの災害ボランティアが被災地に赴き、瓦礫の撤去を行っていた。瓦礫の下には多くの資料が埋もれ、撤去されてしまったものも

あったかもしれない。「文化財レスキュー」という活動そのもの、文化財はかけがえない「ふるさとの宝」であり、決して粗末にしてよいものではないことを早急に知っていただき、展覧会やシンポジウムを開催し、さまざまな報道に取り上げていただいた。

遠野市がいろいろな場面の文化財レスキューと関わりが持てたのは、津波被災地に車で1時間の距離である地理的条件と、このような情報発信を行ったことによる情報の集積と周囲の理解によるところも大きかったと思われる。

震災から一年たってからも内陸部の関係者から、震災当時もっと情報があれば自分にも何かできたかもしれない、後から新聞で知って心苦しい、今からできることはないのかという声が聞こえてくる。

文化財レスキューが、図書館・博物館・文化財に関係する者にとって、「ミッション」の一つであるという認識が広く浸透し、職務として公的に他館のレスキューに協力のできる仕組みのもと、誰でも堂々と参加でき、あるいは現場に直接行けない者でも、日頃から積み重ねた知識と経験を活かした手段で後方支援を行い、広く協力しあって、復興への道りを支える一助となるものとなることを願ってやまない。